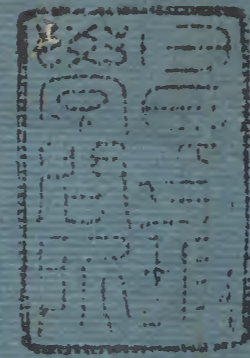


和歌文庫



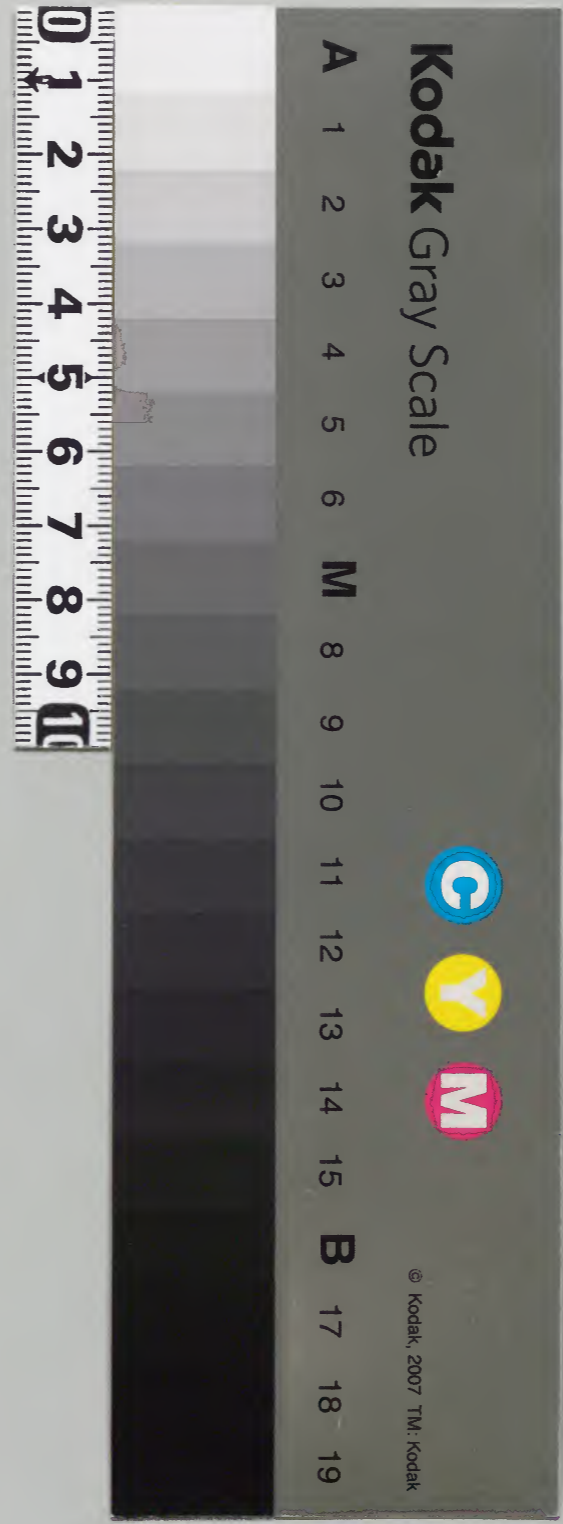
和書門類			
二五三一	一	六	五
號	函	架	冊

内閣文庫		
二〇〇	二五三一	和書
函	一	冊
七	六	架
架	冊	號

内閣文庫	
番號	和 25315
冊數	6 (3)
函號	200 135

和歌

共六



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular frame. The characters are dense and fluid, characteristic of traditional East Asian calligraphy.

11月 11日

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular frame. The characters are dense and fluid, characteristic of traditional East Asian calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular frame. The characters are dense and fluid, characteristic of traditional East Asian calligraphy.

○斧取而丹生檜山木折來而吉野の儀介作六そも別がれを

二梶貫カチヌキ。左の磯撈回乍鳥傳雖見不飽三吉野乃此舟のちふつけ

瀧動々落白浪吉野の滝とまのうらふ大湫とをたきけり

反哥今かくてに旋頭

三芳野瀧白浪留西家か妹見卷欲白浪今三三の句と滝動

○八隅知之和期大皇高照日之皇子之此四句を別

食御食都國伊勢乃國者國見者國見者

之毛之毛のよふ山見者高貴之河見者左夜山見者高貴之河見者左夜

氣久清之水門成海毛廣之

間細美香母浪重浪歸國也伊勢國因興齋宮于五十鈴川上伊勢國因興齋宮于五十鈴川上

恐山邊乃五十鈴乃原尔今本五十師

内日刺大宮都可倍

朝日奈須目細毛

暮日奈須浦細毛浦は

四名比盛而秋山之色

春山之命婦采女

○五十のちまこ正敷用

此河ハ程志摩國とがけて

古も天ハ船也見渡

島名高之他

已許乎志毛志摩

淡海と近江とを
和銅六年より此
紀ふも後人の
見也。

まをえま... 我妹子尔相海之海之奥浪來因濱邊乎。

久礼久礼登... 齋明天皇紀の天御前... 于之盧母俱例尼...

獨曾我來妹之目乎欲... 今本を或か方と附く奉...

近江之海泊八十有... 八十島之... 卷十三...

島之埜耶伎安利立有... 花橘乎末枝尔... 卷九...

知引懸... 六言毛知ハ續ち... 卷十三...

仲枝尔伊加流我懸... 推古天皇紀... 斑鳩... 和名...

下枝尔此米乎懸... 和名抄... 鶺鴒... 卷十三...

乎不知已之父乎取久乎思良尔... 阿蘇婆比座與... 今本ハ伊加流...

伊加流我等此米登... 卷四...

王命恐雖見不飽猶山越而... 京師... 真木積... 卷四...

泉河乃速瀬竿刺渡千速振... 卷四...

天皇の御國を植
安彦の食園を
紀ふも後人の
見也。

或人伊加言... 伊加流我等此米登... 卷四...

○或はよの罪の身
らんが神のついで
とていふはわが
の程あり。我古書
とていふはわが
一つもかゝるは。下は言
奉るぬ國とては然
るべし。其の多耐

○或はよの罪の身
らんが神のついで
とていふはわが
の程あり。我古書
とていふはわが
一つもかゝるは。下は言
奉るぬ國とては然
るべし。其の多耐

冠 氏渡乃多宜都瀬乎。今本宜を企しあやなり。見乍渡而近

江道乃相坂山丹手向爲吾越往者樂浪乃。冠 志我能韓

埼幸有者又反見。道前八十阿每嗟乍吾過往者。

弥遠丹里離來奴彌高二山文越來奴劔刀。冠 鞘從拔出

而伊香胡山。和名抄云伊香郡伊香郷なり。如何吾將爲往邊不

知而。

反哥

天地乎。即神 歎允禱。今本歎と難と得と。今命の長と。今命の長と。今命の長と。

幸有者又反見。思我能韓埼。

○或はよの罪の身
らんが神のついで
とていふはわが
の程あり。我古書
とていふはわが
一つもかゝるは。下は言
奉るぬ國とては然
るべし。其の多耐

○或はよの罪の身
らんが神のついで
とていふはわが
の程あり。我古書
とていふはわが
一つもかゝるは。下は言
奉るぬ國とては然
るべし。其の多耐

○或はよの罪の身
らんが神のついで
とていふはわが
の程あり。我古書
とていふはわが
一つもかゝるは。下は言
奉るぬ國とては然
るべし。其の多耐

百詩年。冠 三野之國之。高北之。八十一隣之宮尔。景

天皇紀云四年二月幸美濃國左右奏言之。茲國有佳人曰弟媛容姿端正八坂入天皇

子之女也。崇神天皇欲得爲妃幸弟媛之家弟媛聞乘輿車駕則隱竹林於是天皇

權令弟媛至而居泳宮。泳宮此云區。日向介。行紫闕矣有登

聞而。今本然と鹿小居。且ゆと。二月幸美濃國。吾通道之。

吾通道之。云と。元慶元年紀云美濃國

與十山三野之山。元慶元年紀云美濃國

惠奈郡内吉蕪小吉蕪

阿胡乃海之荒磯之上之小浪。如ば。吾戀者息時毛無。吾

とてふりて。吾婦をとりて。此

阿胡乃海之荒磯之上之小浪。如ば。吾戀者息時毛無。吾

とてふりて。吾婦をとりて。此

阿胡乃海之荒磯之上之小浪。如ば。吾戀者息時毛無。吾

とてふりて。吾婦をとりて。此

阿胡乃海之荒磯之上之小浪。如ば。吾戀者息時毛無。吾

とてふりて。吾婦をとりて。此

阿胡乃海之荒磯之上之小浪。如ば。吾戀者息時毛無。吾

或説唐逸史云開元中公遠て入初術者杖をちげて昇天橋とて玄宗帝依て入月中霓裳の曲を舞

吾戀者息時毛無

吾

吾

吾

吾

吾

吾

吾

吾

○今本の早とや

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

○今本の早とや

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

後世人の巧といふを

すうやんてふたのめくれあしものうたは依うて且もあつたの五句の思ひね
うゆいもつり。[卷五]うまき月つるあつたの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね
又ゆいねは思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね
されば思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

反哥

眠不睡。吾思君者。何處邊乎。今夜訪與可。
イモチズ。ワガモフキミハ。イツコヘ。ヲコヨヒトフトカカ。今本今身誰と可や
わらひ字の深きもの

眠不睡。吾思君者。何處邊乎。今夜訪與可。
イモチズ。ワガモフキミハ。イツコヘ。ヲコヨヒトフトカカ。今本今身誰と可や
わらひ字の深きもの

○赤駒既立。黑駒既立而。彼乎飼吾。
アカゴマノウマヤフタテ。クロゴマノウマヤフタテ。此下金既立而飼駒角。カヲカヒニ
飼。既立而飼駒。今本此方の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

往如思妻。心乘而。
ユカガゴト。オモヒヅメ。ココロニイリテ。思妻の吾を。心乗。今本此方の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

高山。峯之手折丹。
タカヤマ。けしあかか。てし。はれど。程序の。ニチノタ。ヨリニ。今本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

射日立。十六待如。床敷而。吾待公。犬。
イミタテ。射。シ。十六待如。床敷。トコニキテ。男と共寝。今本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

莫吠行年。
ナホエ。コソ。此行年。今本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

反哥

葦垣之未搔別而。君待跡。人丹勿。
アシガキノ。スエカキ。ワケテ。キミニツト。いづり。人丹。今本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

告事者。柵知。吾待公。犬。
ツグコト。ハ。タテ。シ。犬。今本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

妾背兒者。雖待不來益。天原。振九氣見者。
ワガセ。コハ。ニテド。キマサズ。モノヲアリ。サケミレバ。或本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

妾背兒者。雖待不來益。天原。振九氣見者。
ワガセ。コハ。ニテド。キマサズ。モノヲアリ。サケミレバ。或本此方
の七句の思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひねの思ひね

あれど、初而寒 スバ冬ノ 冠 ヨモフケニケリ 夜毛深去來 おのねーも外もきて持あせ
の言より 夜毛 黒玉之 黒玉 夜毛深去來 夜毛深去來

左夜深而 カヨフケテ 荒風乃吹者 アラシノフケバ 立待 クチニツ
荒風乃吹者 荒風乃吹者

余 ニ 吾衣袖尔 ワガコロモデ 今更公來將座哉 今更公來將座哉 龙奈葛 龍奈葛
余 余 吾衣袖尔 吾衣袖尔 今更公來將座哉 今更公來將座哉 龙奈葛 龍奈葛

零雪者 フルユキハ 凍渡奴 コホリワタリヌ 今更公來將座哉 今更公來將座哉 龙奈葛 龍奈葛
零雪者 零雪者 凍渡奴 凍渡奴 今更公來將座哉 今更公來將座哉 龙奈葛 龍奈葛

後毛將相得名草武類 チモアハムトナグサムルコロラモチテニソデモチ 心乎持而三袖持 心乎持而三袖持
後毛將相得名草武類 後毛將相得名草武類 心乎持而三袖持 心乎持而三袖持

床打拂 トコウチハヒ 卯管庭君 ウツツニハキミ
床打拂 床打拂 卯管庭君 卯管庭君

余波不相夢谷相跡所見社天之足夜于 ニハアハズイメダニアフトニエコソアマノタリヨニ 足夜乎不落落 足夜乎不落落
余波不相夢谷相跡所見社天之足夜于 余波不相夢谷相跡所見社天之足夜于 足夜乎不落落 足夜乎不落落

神を祀りて カミヲメカス 卯管庭君 ウツツニハキミ
神を祀りて 神を祀りて 卯管庭君 卯管庭君

卯管庭君 ウツツニハキミ 卯管庭君 卯管庭君
卯管庭君 卯管庭君 卯管庭君 卯管庭君

此畧書、奈良人の
多し、あつてお
れ、代りて、あつ
た。

反哥

衣袖丹山下吹而 コロモデニアラシノフケテ 寒夜乎君不來者 サムキヨヲキミキニサスハヒトリカモ
衣袖丹山下吹而 衣袖丹山下吹而 寒夜乎君不來者 寒夜乎君不來者

今更意友君余相目八毛 イニサラニコトモキニアハメヤモ 眠夜乎不落 ヌルヨヲオチズ
今更意友君余相目八毛 今更意友君余相目八毛 眠夜乎不落 眠夜乎不落

夢所見欲 イメニミエユク 卯管庭君 ウツツニハキミ
夢所見欲 夢所見欲 卯管庭君 卯管庭君

管根之 スガノ子ノ 根毛一伏三向凝 根毛一伏三向凝 吕尔 ル
管根之 管根之 根毛一伏三向凝 根毛一伏三向凝 吕尔 吕尔

卯管庭君 ウツツニハキミ 卯管庭君 卯管庭君
卯管庭君 卯管庭君 卯管庭君 卯管庭君

山はらへはませ
うさよめい、ち
儂字がきこえず。

反哥

縦惠八師二二去四吾妹ヨシエヤシシナムヨワギモ。生友各鑿社吾意度七目去々本イケリトモカクノミコソワガモワタリナメ。

生友各鑿社

○隱國之泊瀬川乃彼方介妹等者立志是方尔吾者立コモリクノハツセノカハノヲチカタニイモラハタシコノカタニワレハタチ

而テ。六言今本初之乃ちて見渡お妹等オモフワラヤスカラナクニナゲクソラヤスカラナクニ。思慮不安國嘆虛不安國オモフワラヤスカラナクニナゲクソラヤスカラナクニ

左丹漆之小舟毛鴨玉纏之小檝毛鴨サニヌリノラブ子モガモタミキノラカチモガモ。檝ハ加治用ノ字ナリサニヌリノラブ子モガモタミキノラカチモガモ

加伊カヘ。乃今之洲カヘノイマノシマ。榜渡乍毛相語妻遠コギワリツモ。アヒカタラモヲ。モ又何

○忍照オシテル。辭難波乃埼介引登赤曾朋舟ナニハノサキニヒキ登ルアケソノホ。朱の楮舟シロノカミ。栗西麻可称シロノカミ

布久尔布麻曾保乃伊フクニルフマソホノイ

栗西の多紀黄葉の條栗西の多紀黄葉の條

栗西の多紀黄葉の條栗西の多紀黄葉の條

栗西の多紀黄葉の條栗西の多紀黄葉の條

呂本低氏ロホン。曾保ソホ。丹土ニツナトリ。名ナ。曾朋ソホ

舟介綱取繫フネニツナトリカケ。豆良比ヒコツラヒ

比許豆良比ヒコツラヒ。和何多ワニタ。勢セ。比許豆良比ヒコツラヒ

雖為スレト。有雙アリナニ。雖為スレト

曰豆良賓イハツラヒ。有雙アリナニ。雖為スレト

言西我身ハレニシワガミ。有雙アリナニ。雖為スレト

神風之カミカゼ。伊勢乃海之イセノウミ。朝奈伎介アサナギニ

暮奈藝介ユフナギニ。來因キヨルメタミル。役海松フカミル

深目師吾乎フカメシ。侯タテ

○此の上の船と舟
不忠人者てよるを
よ次て載りて渡
るよあしとよし

衣暇田暇をよふ
ら三十りの暇へ

○直不往タニユカヌ石瀬踏道コユコセダチ此從巨勢道柄カヲもかしくも同まの言をうけりかき

り所かきイハヤフミナツミグワガコシ石瀬踏名積序吾來今本より求るしりしは今本より求るしりしは

意而為便奈見コヒテスベ此の船をわきまの史史生をて本へり

○尤夜深而今者明奴登開戸手木部行君乎何時可將サコフケテ今本より求るしりしは

門座娘子内介雖至カドニラサトコ今本より求るしりしは

待ム今本より求るしりしは

痛之愈者今還金イタクシコヒバ今本より求るしりしは

今本より求るしりしは

今本より求るしりしは

○師名立シナテル都久麻ツクマ九野方クノノ息長之ノ遠智能ト小管コケ

近江國坂田郡シノ仕シ内膳式ニ後ノ野方ノのノ願度ノの内ノをノ智ノとノ自ノをノ内ノ

○不連介フネノ伊苜持イモチ來不敷介キナシ伊苜持イモチ來而置而キナシ

吾乎令オノ息長之ノ遠智能ト子管コケ

○三吉野之水具麻我菅乎ミヤノノミヅノ不編フヘ吾乎令オノ息長之ノ遠智能ト子管コケ

○依野方ヨノノのノ依ノのノ後ノ言ノ野方ノのノ傍ノをノ額田ノ下ノ所ノハノ後ノのノ國ノハノ何ノ

○野方ノハノ奴ノ加ノ田ノをノけノ回ノにノ後ノてノりノしノ文ノ得ノるノ傍ノをノハノかノくノぬノ

○伊苜持イモチ來而置而キナシ

嬪宮坐しやハ在津日神のひ迷守り。大殿矣振放見者。白細布飾。

奉而。卷三人万。自皇子之御門。内日刺。冠。宮舎人者。たの自まはれまか

雪のわらひふ。後ありは。つきてはと極あり。

麻衣服者。喪ハハハ私も白麻布と用ひ。孝徳天皇紀イニカモ。

現荷鴨跡。荷を今本前も。雲入夜之。冠。迷間朝裳吉。冠。

城於道從角障經。石村乎見乍。及ふに依。石村ハ昔年あり。

瀬山。何時も。藤原都より南。城上郡の所。神葬奉者往道之。田付叫不知。

城於道。藤原都より南。城上郡の所。神葬奉者往道之。田付叫不知。

城於道。藤原都より南。城上郡の所。神葬奉者往道之。田付叫不知。

無見とる。今おわす。い。

雖思印乎無見。言。雖嘆與香乎無見。御袖。四。

往觸之松矣。言不問木雖在荒玉之。冠。月。

立月每天如振放見管。天原。珠手次。冠。懸而思名雖。

恐有。振放見下。玉手次。恐而思。恐有。珠手次。冠。懸而思名雖。

反哥。角障經。石村山丹白栲。懸有雲者吾王可。

角障經。石村山丹白栲。懸有雲者吾王可。

懸有雲者吾王可。

藤原のまはれ。火葬の烟。石村山。懸有雲者吾王可。

石村山。懸有雲者吾王可。

或人のいへりて 走出之宜山之 紀よ泊瀬一つとのゆり

山中の危を廻りて穴磯山まで引つたをもちりひ然 出立之妙山

叙。まがりて 惜山之 荒巻惜毛

高山與海社者山隨 如此毛現

海隨然毛直有目 補之直ハ幸とてハ物一と云

人者花物曾 今本充てんをばるる一古本ハ物一と云

蟬與人 空蟬ハ傍まわく 頸の月の舟人といふ

王之御命恐秋津島 倭雄過而大伴之 御津之濱

邊從大舟介真梶繁貫旦名伎介水手之音為乍

夕名寸介梶音為乍 行師君

何時來座登幣置而 齋度介枉言哉人

之言釣 我心盡之山之 黃葉之散過去常

云 公之正香乎

反哥

枉言哉人之云鶴玉緒乃イヒツルタモノヲノ長登君者言手師物乎イヒテシモノヲカ

○玉粹之タニホコノ道去人者足檜木之アシビキノ山行野往水激ユキノニキニギラヒ

川往渡不知魚取ユキワタリイサナドリ海道荷出而惶八神之渡者ウニヂニイデハカニシヤカニノワタリハ

吹風母和者不吹立浪母フクカゼモハフカズクツナミモオホニハタマズ跡座浪之シキナミノ

反哥オモイヘ今本とあるをうけて次の方二首或本のおもひなりたるは

家人乃将待物矣津烈裳無イヘドトノミツラムモノヲツレモナシ荒磯矣アリソツヲ

塞道麻ソフミチヲ浪の主障浪の主障誰心勞跡鴨直渡異六タガニコロトホトカモタガワタリケシ

蘆檜木乃アシビキノ山道者将行風吹者浪立塞ヤマミチノヤミガハユカムフケナミノタチノソ

海道者不行ウニヂハユカシ家人乃将待物矣津烈裳無イヘドトノミツラムモノヲツレモナシ

○この直後用ゑ上ノ旅の事ゆゑの凡

○後世ハもを考

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

○今本とあるをうけて

卷而偃有公鴨

初の二句はたの身を公鴨に喩ふ。西の

内潭偃為公矣

行測の潭へ波は打よせ。今日今日跡將來跡待

妻之可奈思母

次の長あともるあはれ父母まゝの妻と申しし。いふ妻と申しし

或人晝行天皇紀

鳥音不所聞海介

今本鳥音之所聞海介。今本鳥音之所聞海介。今本鳥音之所聞海介。

高山麻障所為而與藻麻枕丹卷而

蝦葉之衣。不知魚取。浴不服介。所宿有人者。海之濱邊介浦裳無。所宿有人者。海之濱邊介浦裳無。

海之濱邊介浦裳無

何心も。或は偃為と云ふ。母父

介真名子介可有六

若藜之。妻香有

異六思布言傳八跡家問者家乎母不告名問跡名谷母

ノラズ。ナラトヘドナダニ

不告哭兒如言谷不語

思鞞。おりんぐくくくくくく

悲物者世間有

け二首のぞかひに告かす。幸と云ふ

反哥

母父毛妻毛子等毛高々二

來跡待羅六。今本特異

人之悲沙

四五句はるをてより案。

澳浪

今本澳浪。今本澳浪。今本澳浪。

今本或中ふふお

調ハ氏使主ハかバ
ねらふと今奉ル
使首とある程ハ

圓のまうーの神の
ごまの方のまうーハ
次のごまのまうーハ
みまのまうーハ二まの
混まのまうーハ

あや 來依濱丹津烈裳無 儻有公賀家道不

知裳 今本備後國神島濱調使主見屍作哥一首并短哥

△或本哥

今本備後國神島濱調使主見屍作哥一首并短哥
ハ世々の或本ふるまきまのあやの
わに國地す人あはれぬとまきまの
まあらんげぬのいひとぬねね人のまきまの
あやのまきまのまきまのまきまの
あやのまきまのまきまのまきまの

五揮之道余出立葦引乃野行山行 潦 川往涉鯨

名取海路丹出而吹風裳於穗丹者不吹立浪裳篁跡丹者不起恐耶

神之渡者 敷浪乃寄濱邊丹高山

矣部立丹置而内潭矣枕丹卷而

余 占裳無儻為公者母父之愛子丹裳在將稚草之妻裳將有

家問跡家道裳不云名矣問跡名谷不告

誰之言矣勞鴨腫浪能恐海矣直涉異

將 此月者君將來跡大舟之

思憑而何時可登吾待居

者黃葉之過行跡玉梓之使之云者螢成鬢鬢聞而

大土乎 足踏駈 立而居而去方毛不知朝霧乃

思惑而杖不足 八尺乃嘆 嘆友記乎無跡何所

案上 荒原處女と
よむと今が跟他
とみと一平類地
すも跡地の字を
いふと一平類地
すも跡地の字を
いふと一平類地
すも跡地の字を
いふと一平類地

今本太穂跡とまきまの上の大土はまきまの次ハ
今本太穂跡とまきまの上の大土はまきまの次ハ
今本太穂跡とまきまの上の大土はまきまの次ハ
今本太穂跡とまきまの上の大土はまきまの次ハ

或況事能はは
 〇又...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

〇紀伊國之室之江邊介和名抄云紀伊國牟婁郡牟婁鄉千年介障事無萬

世介シカモアラムト如是將有登大舟乃思特而出立之オモタクニテイデタチシ

清激介ヤキナカニ朝名寸二アサナギニ來依キヨル深海フカシ

松夕難伎介來依繩法ナハノリ引者絕登夜タユトヤ

深目思子等遠繩法之引者絕登夜フカメシコヲヲ

散度人之行之屯介サトビトノ鳴兒成ナクコナス

行取尤具利ユギトリ

志之岐羽矣シノギバノ

〇取在具利と

〇又...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

梓弓弓彌振起スギヤミ志之岐羽矣シノギバノ

人斯悔意思者ヒトシクサモモコレオモハ

〇里人之吾丹告樂サトビトノ

汝意愛妻者ナガコレカダシメハ

黄葉之散乱有神名火之彼山邊柄ワカセテ

烏玉之スバタケノ

河瀬乎七湍渡而カハセヲナヒヒナリテ

妻者會登ツメハ

裏觸而ウラブレテ

〇取在具利と

